

## &lt;論 説&gt;

## わかりやすい英文の書き方をどう指導するか

阿久津 一 恵

## 目 次

- I. はじめに
- II. わかりやすい日本語とは？
- III. アンケート調査の実施
- IV. アンケート調査の結果と分析
- V. アンケート調査結果のフィードバック
- VI. クラスでの指導法
- VII. おわりに

## I. はじめに

筆者は以前「商経論叢」で、「海外に向けた明確な情報発信のあり方を考える」と題し、わかりやすい情報発信の必要性を提言した<sup>1)</sup>。その背景には、われわれの発するメッセージには、日本語の特性に起因する「あいまいさ」があるためだ。われわれのメッセージをわかりやすくするためには、まず簡潔で明快な文章を使い、できるだけ早く結論を述べて、理由を補充する。そして、省略してもわれわれなら推測できる場合でも、大事な部分では主語を明示すべきであると提言した。そして、アメリカの9.11同時多発テロ当日に行われた大統領顧問による記者会見を例にとり、単文を中心とした簡潔でわかりやすい英語のメッセージを参考にすべきだと述べた。

英語は、今日ではリンガフランカ (lingua franca) つまり共通語として理解されている。特に、国際化が進むビジネスの世界では、英語はコミュニケーションのツールとして広く使われている。筆者がビジネス・イングリッシュを担当している本学の経済学部には、将来ビジネスの世界で働きたいと考えている学生も多い。ビジネス・イングリッシュを担当する教員として、彼らに英語でわかりやすいメッセージとは何かを教えることは、急務だと考える。

しかし、従来の英語教育で「英文和訳」や「和文英訳」を教えられてきた学生に、すぐに英語で考え、英語で話し、英語で書くことを求めるのは無理な注文である。そこで、筆者が担当する「経済専修英語」の「講読」と「作文」のクラスでは、日本語を補助的に使って、英語を理解できるよう指導している。「講読」のクラスでは、キーワードを日本語で簡単なメモの形にし、そのメモを基に英文の内容をまとめられるように指導している。また、「作文」のクラスでは、自

分の言いたいことを日本語で文章にしてそれを訳するのではなく、簡単なメモを作るよう指導している。

本稿では、「作文」のクラスでの指導法を中心に、わかりやすい英文の書き方を検討する。そのために、まずは補助的に使う日本語に焦点を当て、「わかりやすい日本語」とはどのようなものかを考える。ついで、アンケート調査を基に、学生が日本語の特性をどのように理解しているかを検討する。そして、調査結果を踏まえて、わかりやすい英文を書くには、どのように学生を指導したらよいかを提言する。

## Ⅱ. わかりやすい日本語とは？

宮部 (2000) は、新聞記者の経験を基に、わかりやすい文章を書くための確認作業として次の点を挙げている<sup>2)</sup>。

- ①文章の主語を明確にすること、
- ②主語と述語の関係をハッキリさせること、
- ③修飾語と被修飾語の関係、文と文の関係、かかり具合などが複雑であいまいになる文章を避けること、
- ④文章は極端に長くしないこと、
- ⑤新聞特有の体言止めや紋切り型の表現で読み手に違和感を与えるようなリズムをつくらないこと。

そして宮部は、「わたしが最も強調したいのは①『主語を明確に』、②『主語と述語の関係も明確に』の重要さである。」と結んでいる<sup>3)</sup>。

文章作法でよく引用される文献に、岩淵編著の「悪文」がある。その中で、岩淵は「主語はなるべく早く出した方がいい。しかも、主語と述語との距離は短い方がいい。」と述べている。そして、「両方の要望を満足させるのは、なかなか難しいが、たった一つ道がある。それは、短い文を書くということ。これは、あらゆる場合の鉄則とっていい。」と結論づけている<sup>4)</sup>。主語と述語の距離について中村 (1999) は、「主語と述語が文のはじめと終わりに分かれやすいという日本語の文法的な性質上、両者の間隔がどうしても大きくなりやすい。」と日本語の組み立ての問題点について言及している。そして、「一般に主語と述語との間が離れすぎるとわかりにくくなる傾向がある。」と指摘している。その解決策として、「読み手の負担を軽減するためには、無理なくできる範囲で文を短くし、主語と述語との関係を明確にすることだ」と述べている<sup>5)</sup>。

上記の提案をまとめると、日本語でわかりやすい文章を書くには：

- ・主語を明確にする
- ・主語は早い段階で出す
- ・主語と述語の関係を明確にする
- ・主語と述語の距離を短くする

そして、これを実現するには「一文を短くする」ことである。これはまさに、筆者が、わかりやすい情報発信をするために参考にすべきだとした、英語のメッセージと一致する。

### Ⅲ. アンケート調査の実施

学生が日本語の特性をどの程度理解しているか、そして英語との違いをどう認識しているかを調べるため、アンケート調査を行った。調査には、「読売新聞」の社説と同社の英字新聞“The Japan News”の記事を使用した。素材として取り上げたのは、ビジネス関連の社説を中心に、今年話題となった出来事に関する社説である。調査は前半と後半に分け、前半では、主語が省略された文章を提示し、学生が省略された主語をどのくらいの確に把握しているかを調べた。また、後半では日本語の社説の一部と同社説の英文を並べて、どちらが文の組み立てがわかりやすいかを選ばせた。調査は、筆者の担当する経済専修英語（作文Ⅱ）を履修している2, 3, 4年の学生を対象として行い、回答者は127名だった。なお、この中には日本語を母語としない9名の留学生もいた。しかし、留学生の回答と日本人学生の回答との間に、顕著な偏りは見られなかったので、調査結果には彼らの回答も含めてある。（アンケート調査項目全体は本稿の最後に掲載してある。）

### Ⅳ. アンケート調査の結果と分析

#### 1. 主語の省略

前節で、日本語でわかりやすい文章を書くためには、「主語を明確にする」ことが必須だと述べた。しかし、実際には日本文ではしばしば主語が省略される。宮部（2000）は、「主語のない文章こそ、日本語の非論理性を自然に表した文章といえ、日本人には受けがよいのは当然の話でもある。」と指摘している<sup>6)</sup>。だが、学生はその省略された主語を、どの程度の確に把握しているのだろうか。下線部分の省略された主語は何かを問う8つの質問のなかで、最も正解率が低かったのは、次の一文である。

（例1）「2020年東京五輪 復興と経済成長の起爆剤に」<sup>7)</sup>

五輪開催を東京だけでなく、東日本大震災の被災地、さらに日本全体の活性化につなげた  
い。

主語が「筆者・私・私たち」と答えたのは、127名中26名で、「(日本)国民」という回答を含めても、正解は全体の26%にすぎなかった。一方、37%の学生が、主語は「五輪開催」あるいは「東京五輪」と回答した。主語が省略され、述語が最後に出てくるこのような文章では、文章全体の構成を的確に把握するのは難しいようである。

一方、正解率が最も高かったのは、次の一文である。

(例2) 「途上国リスク 日本企業が抱える課題は重い」<sup>8)</sup>

日揮は1960年代からアルジェリアの資源開発に取り組み、アフリカだけでなく、中東、アジアなど世界に展開してきた。

売上高に占める海外比率は7割超に達し、海外で稼ぐパイオニア企業である。

主語が「日揮」「世界に展開してきた日揮」と答えた学生は、82%であった。しかし、7%の学生が主語は「(アルジェリアの) 資源開発」, 「(海外で稼ぐ) パイオニア企業」あるいは「(売上高に占める) 海外比率」と的外れな回答をしていた。

上記の文に次いで正解率が高かったのは、次の2例である。

(例3) 「FRB 出口戦略 市場の混乱防ぐ舵取りが要る」<sup>9)</sup>

議長の踏み込んだ発言には、最近の米国の景気回復基調に自信を深めていることがうかがえる。金融政策の先行き不透明感を払拭したい狙いもあるのだろう。

主語は「議長の(踏み込んだ) 発言」, 「発言」あるいは「(FRB) 議長」と回答した学生は、全体の78%である。下線部分の文章が比較的短く、また直前の文章で主語が明示されているので、理解しやすかったのではないだろうか。しかし、「金融政策」や「(金融政策の先行き) 不透明感」を主語と考える学生も6%いて、主語と述語の関係がしっかりと把握できていないことがわかる。

(例4) 「途上国リスク 日本企業が抱える課題は重い」<sup>10)</sup>

アルジェリアで起きたイスラム武装勢力による人質事件は、海外展開する日本企業に危機管理体制の見直しを迫った。

ビジネスチャンスを拡大しながら、テロなどのリスクにどう備えるか。難しい課題の両立策を模索しなければならない。

この質問に対しては、74%の学生が、主語は「(海外に展開する) 日本企業」あるいは「企業」と回答していた。しかし、下線部分では目的語にあたる「(難しい課題の) 両立策」を主語ととらえたり、「危機管理体制 (の見直し)」を主語ととらえたりする学生も9%いて、日本文が的確に把握できていない点が明らかになった。

次に、出題した8例のうち、全体の6割あまりしか正解できなかつた4例を見ることとする。

(例5) 「2.6%成長 消費税増税に耐えられる体力か」<sup>11)</sup>

安倍首相は、来年4月の消費税率引き上げの当否を、今週に最終判断する。消費増税によっ

て景気が腰折れし、デフレ脱却のチャンス逃しては元も子もない。

日本経済が消費増税に耐えられる体力を回復しているかどうか、難しい見極めが求められよう。

60%の学生が、主語は「(安倍) 首相」, 「安倍内閣」, 「政府」あるいは「彼」と回答していた。一方で、主語は「日本経済」と答えた学生が17%, 「消費税増税」, 「消費税率引き上げ」または「消費税値上げの当否」と回答した学生が13%いて、構文の把握が的確にできていないことがわかる。

(例6) 「同上」

首相は記者団に「今後も経済政策に万全を期したい」と述べた。景気を最優先し、今度こそデフレ脱却を果たさねばならない。

重要なのは、民間が主導する自立的な経済成長の達成である。設備投資のテコ入れなどを急ぐべきだ。

主語は「首相」, 「(日本) 政府」, 「民間 (企業)」, 「首相と首相に指示された民間」と答えたのは、66%である。しかし、目的語にあたる「(設備投資の) テコ入れ」を主語とした学生が10名(8%)おり、ほかにも「経済政策」, 「(自立的な) 経済成長」, 「デフレ脱却」あるいは「重要なのは」が主語と答えた学生が20%にのぼった。

(例7) 「同上」

首相が政策判断の材料として、消費税率引き上げの是非や増税した場合の影響について、有識者や企業経営者の意見を聞くよう指示したのは妥当である。

予断を持たず、各方面の声に耳を傾けてもらいたい。

この質問に対しては、「首相」, 「政府」あるいは「筆者」, 「私たち」と答えた学生は61%である。しかし、「各方面 (の声)」あるいは「耳」が主語だと的外れな回答をした学生が、8名(6%)もいた。

(例8) 「FRB 出口戦略 市場の混乱を防ぐ舵取りが要る」<sup>12)</sup>

異次元の量的緩和策を続ける日本銀行にとっても、FRBの課題は「他山の石」と言える。

当面は、デフレ脱却や日本経済再生を最優先し、緩和効果の最大化を図るべきだが、将来の出口戦略に向け、いずれ本格的に検討を進める必要がある。

63%の学生が、主語は「日本銀行」、「量的緩和策を続ける日本銀行」あるいは「日本銀行総裁」と答えていた。一方、6%だが、「FRBの課題」、「FRB」または「(将来の) 出口戦略」を主語とする学生もおり、構文がしっかり把握できていないことがわかる。

以上見てきたように、主語が省略された場合、その省略された主語を的確に補って文章を理解できるかどうかは、非常に疑問である。最も正解率が高かった例でも、主語がわかった学生は8割強にとどまっていた。つまり、2割弱の学生は、主語を的確に把握していないことになる。また、正解率が最も低かった例では、3割弱の学生しか主語が把握できていなかった。「主語の省略」は日本語の特質で、日本語らしさを表すものだという考え方は、再考すべき時期に来ていると思う。

## 2. 日本文と英文のくみたての比較

前節で、わかりやすい文章を書くためには、「一文は短く」することが必須だと述べた。しかし、細かく文章をつないでパラグラフを組み立てていく英文と比較した場合、日本文はどうだろうか。同じ内容を伝えるとき、日本文と英文との伝え方の違いを学生がどう認識しているかを調べることにした。なお、英文では最重要単語以外の単語と熟語に、日本語の意味を添えておいた。学生には8例を提示し、日本文と英文の組み立て方を見て、どちらがわかりやすいかを聞いた。そのうち、一方の言語が他方の言語よりわかりやすいと答えた比率が2倍かそれ以上だったのは3例である。「日本文の方がわかりやすい」が2例、「英文の方がわかりやすい」が1例である。まずは、「日本文の方がわかりやすい」という結果になった2例を見てみよう。

(例1) 「2020年東京五輪 復興と経済成長の起爆剤に」<sup>13)</sup>

東京の開催計画は、当初から高い評価を受けていた。移動時間を短縮させるため、主要な競技会場を選手村から半径8キロ・メートル圏内に集中させるなど、選手に最大限、配慮した内容と言える。

“Tokyo Olympics sporting tonic to spur recovery, economic growth”<sup>14)</sup>

Tokyo's blueprint and vision for the Games were rated highly from the very beginning. The main event venues will be within an eight-kilometer radius of the Olympic Village to minimize travel times for athletes as much as possible. The plans give utmost consideration to the athletes.

この二つの文章を比較して、60%の学生が日本文の方がわかりやすいと答えていた。その理由として、多くの学生が日本文の方が「短く要約されている」、「まとまっている」あるいは「簡潔で読みやすい」という点を挙げていた。彼らはまた、英文は「説明が長い」あるいは「説明が遠回し」であると指摘していた。

一方、18%の学生が、英文の方がわかりやすいと答えていたが、その理由として最も多く挙げられたのが、英文の方が「主語がわかりやすい」という点であった。

なお、この例文では、22%が文章のわかりやすさという点では「どちらともいえない」と回答していた。

(例2)「FRB 出口戦略 市場の混乱防ぐ舵取りが要る」<sup>15)</sup>

FRBは昨年末、異例策の一環として08年12月から続けるゼロ金利政策の解除については、インフレ率をみながら、「失業率が6.5%に下がるまで続ける」という方針を示している。

“Fed needed to steer policy for preventing market turmoil”<sup>16)</sup>

Toward the end of last year, the Fed said it would not lift short-term interest rates from zero until the unemployment rate shrinks to 6.5 percent, while also keeping an eye on inflation. The easy-money measure has been in place since December 2008.

日本文の方がわかりやすいと回答した学生は、全体の56%だった。その理由として挙げているのが、「簡潔にまとまっている」、「一文に要約されていてわかりやすい」という点で、1例目と同様であった。

一方、英文の方がわかりやすいと回答した学生は24%にとどまった。英文の方がわかりやすい理由としては、「初めの文でこの文の主張を理解できる」、「最初に結論を言っているのでわかりやすい」あるいは「大切なところをわかりやすく示している」などであった。

これまで、学生の多くが日本文の方がわかりやすいと回答した例を見てきたが、次に英文の方がわかりやすいとされた例を見てみよう。

(例3)「G8 首脳宣言 日本経済が久々に示す存在感」<sup>17)</sup>

世界が成長するための原動力は自由貿易推進だとして、宣言は、日本が参加する環太平洋経済連携協定(TPP)交渉などについて「可能な限り速やかな完結を目指す」と明記した。

“Japan, Abenomics grabbed spotlight at G-8 summit meeting”<sup>18)</sup>

The statement said open trade is a key engine of global economic growth. It listed ongoing free trade talks, such as the Trans-Pacific Partnership framework talks in which Japan is involved, and added that the G-8 nations “aim to finalize all these deals as soon as possible.”

先の2例と異なり、48%が英文の方がわかりやすいと回答し、日本文の方がわかりやすいと回答した24%を上回っていた。しかし、24%の学生はどちらともいえないと回答していた。英文の方がわかりやすいという理由として最も多かったのが、「主語がわかりやすい」という点で

あった。「宣言が何を宣言するものか先に書いてあるから」あるいは「主語と述語が近くて、初めに言いたいことがわかる」と指摘する学生もいた。

日本文に関しては、「主語と述語が離れていてわかりづらい」、「一文が長くてよくわからない」あるいは「句読点が多く、文章を分けた方が理解しやすい」といった指摘もあった。

次に、先の3例ほどではないが、日本文と英文の組み立て方のわかりやすさに違いが出た2例を見てみよう。まずは英文の方がわかりやすいという回答が多かった文章である。

(例4)「2020年東京五輪 復興と経済成長の起爆剤に」<sup>19)</sup>

高円宮妃久子さまが、東日本大震災での各国からの支援に謝辞を述べられたことは、票を投じたIOC委員の心に響いたのではないか。

“Tokyo Olympics sporting tonic to spur recovery, economic growth”<sup>20)</sup>

Princess Hisako of Takamado expressed gratitude for the international support given after the Great East Japan Earthquake and tsunami disaster in 2011. Her remarks apparently struck a chord with IOC members who cast votes.

53%が英文の方がわかりやすいと回答した。理由として多くの学生が挙げているのが、主語と述語のわかりやすさだった。英文が2文に分けられている点を評価する学生が多かった。「最初に何を求めたか、それがどう影響したのかに分けてあるため」あるいは「謝辞を述べたこと・IOC委員の心に響いたことで文が区切られている」と具体的に理由を挙げる学生もいた。

一方、38%が日本文の方がわかりやすいと回答した。その理由として最も多かったのが、日本文の簡潔さだった。

次の例は、日本文の方がわかりやすいという回答の方が多かった例である。

(例5)「G8首脳宣言 日本経済が久々に示す存在感」<sup>21)</sup>

政府は、今夏策定する中期財政計画で、成長と財政再建の両立への具体的な道筋を示し、その実現を図ることが肝要である。

“Japan, Abenomics grabbed spotlight at G-8 summit meeting”<sup>22)</sup>

The Abe administration plans to draw up a medium-term fiscal plan this summer. It is crucial for the government to show in the fiscal plan a concrete path toward simultaneously achieving the goals of economic growth and fiscal rehabilitation. After announcing the plan, the government must make wholehearted efforts to realize it.

日本文の方がわかりやすいと回答したのは、57%であった。その理由として挙げているのが「簡潔でわかりやすい」や「短くまとまっていて読みやすい」という点であった。それに対し

て、英文は「長々と説明しすぎ」あるいは「一つ一つの説明が細かすぎる」と指摘された。

一方、32%が英文の方がわかりやすいと回答し、その理由として挙げたのは、「内容を明確にしている」、「時系列を追って一文が区切られている」あるいは「何が重要かわかりやすい」であった。

残りの3例に関しては、日本語と英文で組み立て方のわかりやすさにあまり大きな違いはなかった。以上、日本語と英文の組み立てを比較し、学生が両者をどのように把握しているかを見てきた。日本語がわかりやすいと回答した学生の多くが指摘していたのが、日本語が「簡潔」で「まとまっている」という点であった。そして、英文に対しては、「説明が長い」や「説明が回りくどい」と批判していた。一方、英文がわかりやすい第一の理由として挙げられていたのが、「主語がわかりやすい」という点であった。

## V. アンケート調査結果のフィードバック

どうしたらわかりやすい英文を書くことができるか。学生への指導は、まずアンケート調査の結果をフィードバックすることから始めた。まず、主語の省略に関しては、アンケート調査前半のデータから、省略された主語を正しく補うことは難しい点を指摘した。そして、主語を明確にする必要性を強調した。

ついで、後半のデータに基づき、わかりやすい英文を書く上で参考とすべき点は何かを説明した。日本語と英文の組み立て方を比較した8例で、学生は日本語が「簡潔」で「まとまっている」とコメントすることが多かった。しかし、各例の日本語を検討すると、かなり複雑な構文が多い。つまり、先に述べたわかりやすい日本語を書くための：

- ・主語を明確にする
- ・主語は早い段階で出す
- ・主語と述語の関係を明確にする
- ・主語と述語の距離を短くする
- ・これらを実現するため一文を短くする

という条件からはほど遠いということである。

具体的にそれぞれの文章を見てみよう。(例1)は3対1以上の割合で日本語の方がわかりやすいという結果になった。しかし、「主要な競技会場を選手村から半径8キロ・メートル圏内に集中させる」という事実と、「選手に最大限、配慮した内容と言える」という意見が同じセンテンスに盛り込まれているため、複雑な文章となっている。英文のように、事実と意見を切り離して書けば、もう少しわかりやすい文章になるはずである。学生が、事実と意見を書き分ける重要性を認識できたのが(例4)である。この例でも、「各国からの支援に謝辞を述べられた」という事実と、「票を投じたIOC委員の心に響いたのではないか」という意見が一文に盛り込まれている。しかし、多くの学生が英文の方がわかりやすいと回答し、事実と意見を書き分けた点をわ

かりやすい理由として挙げていた。この例は、わかりやすい英文を書く上で、よい参考になるはずである。

次に、(例2)と(例5)の二つの日本文を見てみよう。(例2)では、主語である「FRB」と述部である「方針を示している」が非常に離れているため、構文をつかむのが難しくなっている。しかも「ゼロ金利政策」を修飾するために「異例策の一環として08年12月から続ける」という一文が挿入されているため、複雑な構文になっている。ここは、英文のように文章を二つに区切り、早めに主語と述語を出してわかりやすい構文にすべきであることを指導した。(例5)でも、「政府は」という主語に対して、政府がとる行動として、「今夏中期財政計画を策定する」、「具体的道筋を示す」そして「実現を図る」という3つが挙げられている。まずは、学生の多くが、「簡潔でわかりやすい」と考えている構文が、実はかなり複雑な構文だということを認識させた。

最後に、(例3)を見てみよう。この例では、英文の方がわかりやすいと回答した学生が多かった。その理由として、日本語は「主語と述語が離れていれわかりづらい」が、英文は「主語がわかりやすい」とコメントする学生が多かった。この例は、わかりやすい日本文を書く上で必須とされる「主語と述語の距離を短くする」という原則に反した文章だということを、学生に認識させることができた。

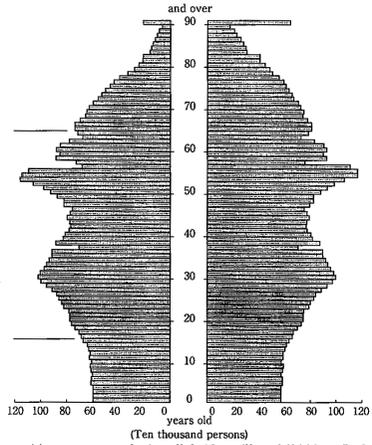
これまで見てきたように、わかりやすい英文を書くためには、補助的にメモとして使う日本語も簡潔にする必要がある。学生がこの点をしっかり理解できれば、わかりやすい英文を書く上で、大いに役立つはずである。

## VI. クラスでの指導法

本年度使用したテキスト<sup>23)</sup>には、まず短いセンテンスを作り、次にいくつかのセンテンスを組み合わせて長めのセンテンスを作るという章がもうけられている。それらの章は、比較的長めのセンテンスも、個々の短いセンテンスが基になっていることを理解させる上で、有効であった。と同時に、学生を指導していくうえでの今後の問題点も明らかにしてくれた。次は、課題の一つとして取り上げた練習問題である<sup>24)</sup>。

Short Sentences

Population Pyramid - Japan 2002



(See <<http://www.stat.go.jp/english/data/jinsui/2002np/index.htm>>)

- The birthrate in Japan is falling. It is continuing. The population pyramid shows this.
- The population of Japan is aging. This is happening rapidly. This is a result of the low birthrate.
- The problem is caused by several things. Partly, by the cost of raising children. This is high.
- The government should help families. They have to pay child care costs. That's my view.

As *the population pyramid shows*, the birthrate \_\_\_\_\_

As \_\_\_\_\_, the population \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_. The problem \_\_\_\_\_ by \_\_\_\_\_

In \_\_\_\_\_, the government should \_\_\_\_\_

この練習問題では、提示された三つの短いセンテンスまたは句をまとめて、一つのセンテンスに作り替えるものである。まずは、基本的な解答例を見ることにする。

As the population pyramid shows, the birthrate in Japan is continuing to fall. As a result, the population of Japan is aging rapidly. The problem is partly caused by the high cost of raising children. In my view, the government should help families with child care costs.

学生の解答を見ると、文章をまとめるという課題が、意外に難しいことが明らかになった。もっとも顕著だったのが、副詞や形容詞の使い方である。一例は、“The population of Japan is aging.”と“This is happening rapidly.”という二つの文章を、“The population of Japan is aging rapidly.”とまとめることである。また別の例として、“The problem is caused by several things.”と“Partly by the cost of raising children.”、そして“This is high.”という三つを“The problem is partly caused by the high cost of raising children.”という文章にまとめることである。一見、簡単なようだが、多くの学生が正解を出すことができなかった。問題の根本は、学生が形容詞や副詞の果たす役割を十分理解していない点にあり、再度指導する必要性を感じた。また、学生は、主語となる代名詞にも手を焼いていたようである。最後の部分で、“The government should help families.”と“They have to pay child care costs.”という二文をまとめるのに、“The government should pay child care costs.”という答えを書いた学生が多くいた。英文では、主語が省略されることはほとんどないが、代名詞が主語となる場合は、それが何を指すのかがあいまいなまま文章を読んでいる学生が多いことがわかった。一方で、慣用表現に関しては、新たな発見があった。提示された“As”や“In”を手掛かりに、“As a result”や“In my view”という慣用表現を用いて文章をまとめることができると考えた学生が、かなり多かった点である。

以上見てきたように、この練習問題でまとめた文章は、どれも短いセンテンスが基本となっている。形容詞や副詞あるいは慣用表現を上手に利用すれば、一つのセンテンスにまとめてもあまり複雑な文章にはならない。事実、出来上がった文章は、複文が一つあるだけで、あとはすべて単文である。学生にとっては、なかなか難しい課題だが、こうした点を説明することでわかりやすい英文の書き方を学生に指導することができると思う。

## VII. おわりに

これまで、わかりやすい英文を書くには、学生をどう指導したらよいかを検討してきた。ビジネス・イングリッシュを担当する筆者の目標は、一人でも多くの学生が英語で考え、英語で話し、書けるよう指導することである。しかし、現在の学生の英語運用能力を見た場合、日本語を補助的に使って指導することが、次善の策と考える。日本語を有効に使うためには、学生にまず日本語の特性を理解させる。次に、わかりやすい日本語とはどのようなものかを理解させる。そ

の上で、日本語をメモとして補助的に使って英文を書くよう指導していく。

本稿のはじめに述べたように、英語はビジネスの世界で、リングフランカとして欠かすことのできない言語となっている。海外とのビジネスにおいて、情報伝達的手段としてのEメールは年々その比重を増している。こうした状況下で、わかりやすい英文が書けるかどうかは、今後ますます重要となるはずである。

最近、授業時間外に提出された課題の中に、明らかに翻訳ソフトを使って作ったと思われる文章を見かけることがある。比較的長い文章で、部分、部分は文法的にも間違いはないが、全体としてみた場合、何が言いたいのかわからないことが多い。学生には、翻訳ソフトに頼る前に、まずは簡単な英文を作るよう指導する必要性を感じている。わかりやすい英文を書ける学生が一人でも多く誕生し、国際ビジネスの世界に羽ばたいてくれるのを願うばかりである。

## アンケート調査

I：次の各文は読売新聞の社説の一部である。下線部分の主語は何か答えなさい。

- 1) 「2020年東京五輪 復興と経済成長の起爆剤に」(9/10/2013)

五輪開催を東京だけでなく、東日本大震災の被災地、さらに日本全体の活性化につなげたい。  
( )

- 2) 「2.6%成長 消費税増税に耐えられる体力か」(8/13/2013)

安倍首相は、来年4月の消費税率引き上げの当否を、今週に最終判断する。消費税増税によって景気が腰折れし、デフレ脱却のチャンスを逃しては元も子もない。

日本経済が消費税に耐えられる体力を回復しているかどうか、難しい見極めが求められるよう。  
( )

- 3) 「同上」

首相は記者団に「今後も経済政策に万全を期したい」と述べた。景気を最優先し、今度こそデフレ脱却を果たさねばならない。

重要なのは、民間が主導する自立的な経済成長の達成である。設備投資のテコ入れなどを急ぐべきだ。  
( )

- 4) 「同上」

首相が政策判断の材料として、消費税率引き上げの是非や増税した場合の影響について、有識者や企業経営者の意見を聞くよう指示したのは妥当である。

予断を持たず、各方面の声に耳を傾けてもらいたい。  
( )

- 5) 「途上国リスク 日本企業が抱える課題は重い」(1/26/2013)

アルジェリアで起きたイスラム武装勢力による人質事件は、海外展開する日本企業に危機管理体制の見直しを迫った。

ビジネスチャンスを拡大しながら、テロなどのリスクにどう備えるか。難しい課題の両立策を模索しなければならない。

( )

6) 「同上」

日揮は1960年代からアルジェリアの資源開発に取り組み、アフリカだけでなく、中東、アジアなど世界に展開してきた。

売上高に占める海外比率は7割超に達し、海外で稼ぐパイオニア企業である。

( )

7) 「FRB 出口戦略 市場の混乱防ぐ舵取りが要る」(6/21/2013)

議長の踏み込んだ発言には、最近の米国の景気回復基調に自信を深めていることがうかがえる。金融政策の先行き不透明感を払拭したい狙いもあるのだろう。

( )

8) 「同上」

異次元の量的緩和策を続ける日本銀行にとっても、FRBの課題は「他山の石」と言える。

当面は、デフレ脱却や日本経済再生を最優先し、緩和効果の最大化を図るべきでだが、将来の出口戦略に向け、いずれ本格的に検討を進める必要がある。

( )

II：次は「読売新聞」の社説の抜粋と、The Japan Newsに掲載された同社説の英文である。二つの文を比べて（見出しは含まない）、文の組み立てがわかりやすい方を選び、その理由を述べなさい。なお、英文の最重要語以外の単語・熟語（下線）には日本語を添えてある。

1) 「2020年東京五輪 復興と経済成長の起爆剤に」(9/10/2013)

高円宮妃久子さまが、東日本大震災での各国からの支援に謝辞を述べられたことは、票を投じたIOC委員の心に響いたのではないか。

“Tokyo Olympics sporting tonic to spur recovery, economic growth” (9/11/2013)

Princess Hisako of Takamado expressed gratitude for the international support given after the Great East Japan Earthquake and tsunami disaster in 2011.

Her remarks apparently struck a chord with IOC members who cast votes.

gratitude 感謝 disaster 災害 remarks 意見 apparently 明らかに

strike a chord 心に感じさせる cast 投じる

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

2) 「同上」

東京の開催計画は、当初から高い評価を受けていた。移動時間を短縮させるため、主要な競技会場を選手村から半径8キロ・メートル圏内に集中させるなど、選手に最大限、配慮した内容と言える。

Tokyo's blueprint and vision for the Games were rated highly from the very beginning. The main event venues will be within an eight-kilometer radius of the Olympic Village to minimize travel times for athletes as much as possible. The plans give utmost consideration to the athletes.

blueprint 青写真 vision 見通し venue 会場 radius 半径

minimize 最小限にする athlete 運動選手 utmost 最大限の

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

3) 「途上国リスク 日本企業が抱える課題は重い」(1/26/2013)

犠牲になった大手プラントメーカー日揮と関連会社の社員10人のうち9人の遺体と、無事だった7人が、政府専用機で帰国した。

“Hostage crisis shows challenges facing Japanese firms abroad” (1/27/2013)

In the recent crisis, 10 employees of major plant construction company JGC Corp. and companies related to it were killed. On Friday, the bodies of nine of them returned to Japan on a Japanese government plane, along with seven survivors.

crisis 危機 employee 従業員 major 主要な construction 建設

JGC Corp. 日揮 along with と一緒に survivor 生存者

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

4) 「G8首脳宣言 日本経済が久々に示す存在感」(6/20/2013)

宣言が大胆な金融緩和、財政刺激策、成長戦略という「3本の矢」に言及し、「日本の成長を支える」と評価した意味は重い。

“Japan, Abenomics grabbed spotlight at G-8 summit meeting”(6/21/2013)

It is noteworthy that the statement refer red to the so-called “three arrows” of Abenomics - bold monetary easing, fiscal stimulus and growth strategy. The statement gave a positive assessment to Abenomics, saying that the three arrows would underpin the nation's growth.

noteworthy 注目すべき refer 言及する so-called いわゆる arrow 矢

Abenomics アベノミクス monetary easing 金融緩和 fiscal stimulus 財政刺激策

strategy 戦略 positive 積極的な assessment 評価 underpin 支える

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

5) 「同上」

政府は、今夏策定する中期財政計画で、成長と財政再建の両立への具体的な道筋を示し、その実現を図ることが肝要である。

The Abe administration plans to draw up a medium-term fiscal plan this summer. It is crucial for the government to show in the fiscal plan a concrete path toward simultaneously achieving the goals of economic growth and fiscal rehabilitation. After announcing the plan, the government must make wholehearted efforts to realize it.

administration 政府 draw up 作成する medium-term 中期  
crucial きわめて重大な concrete 具体的な path 方向 simultaneously 同時に  
rehabilitation 復興 wholehearted ひたむきな

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

6) 「同上」

世界が成長するための原動力は自由貿易推進だとして、宣言は、日本が参加する環太平洋経済連携協定（TPP）交渉などについて「可能な限り速やかな完結を目指す」と明記した。

The statement said open trade is a key engine of global economic growth. It Listed ongoing free trade talks, such as the Trans-Pacific Partnership framework talks in which Japan is involved, and added that the G-8 nations “aim to finalize all these deals as soon as possible.”

global 地球的規模の ongoing 進行している framework 構想 aim 目指す  
finalize 完結させる

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

7) 「同上」

一方、1月のアルジェリア人質事件を受け、北アフリカ諸国でのテロ対策にG8が協調することで一致したのは評価できる。

The G 8 leaders also agreed to take concerted action on measures against terrorism in North Africa, in light of January's hostage crisis at an Algerian natural gas complex. This is also a laudable development.

concerted 共同での terrorism テロ行為 in light of を考えて hostage 人質

complex コンビナート    laudable 称賛に値する    development 進展

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：

8) 「FRB 出口戦略 市場の混乱防ぐ舵取りが要る」(6/21/2013)

FRB は昨年末、異例策の一環として 08 年 12 月から続けるゼロ金利政策の解除については、インフレ率をみながら、「失業率が 6.5% に下がるまで続ける」という方針を示している。

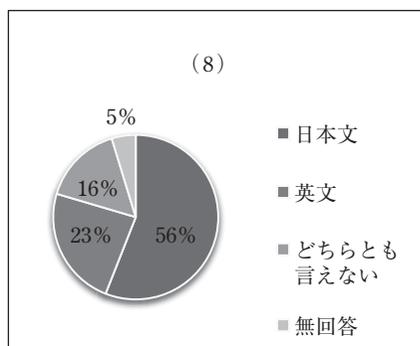
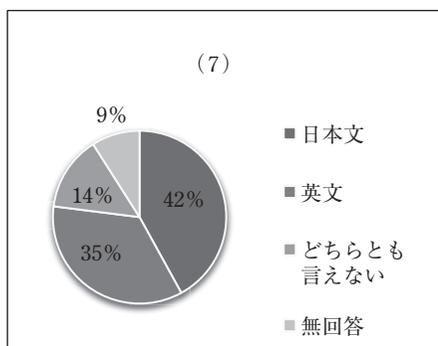
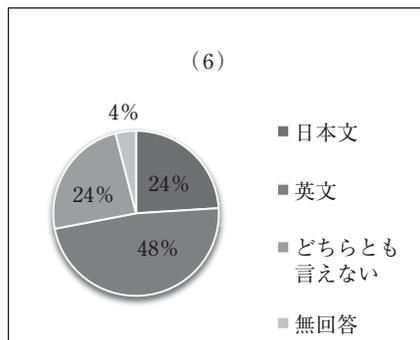
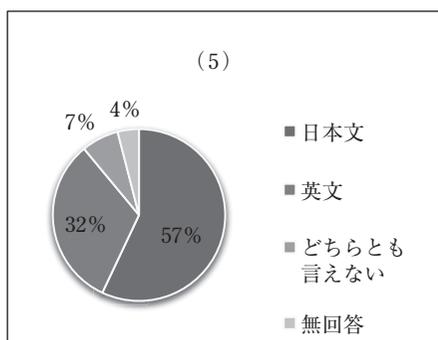
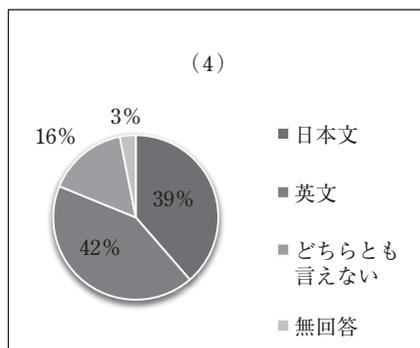
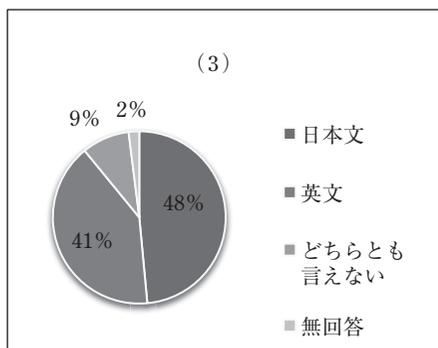
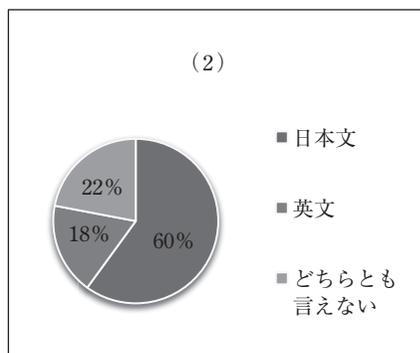
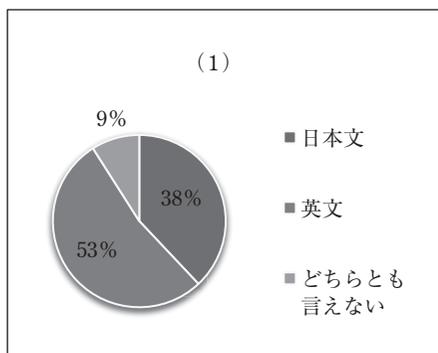
Toward the end of last year, the Fed said it would not lift short-term interest rates from zero until the unemployment rate shrinks to 6.5 percent, while also keeping an eye on inflation. The easy-money measure has been in place since December 2008.

Fed. FRB (Federal Reserve Board) lift (利率など) を引き上げる    short-term 短期の  
interest rate 利率    unemployment 失業    shrink 減る

keep an eye on から目を離さない    the easy money measure ゼロ金利政策

日本文・英文・どちらとも言えない

理由：



注

- 1) 阿久津一恵「海外に向けた明確な情報発信のあり方を考える」, 『商経論叢』, 48-2号, 2012年, 29-42頁。
- 2) 宮部修「文章をダメにする三つの条件」, 丸善, 2000年, 141-142頁。
- 3) 同上書, 142頁。
- 4) 岩淵悦太郎編著「第三版 悪文」, 日本評論社, 1977年, 125頁。
- 5) 中村明「名文作法」, PHPエディターズ・グループ, 1999年, 46頁。
- 6) 宮部, 前掲書(注2), 140頁。
- 7) 2013年9月10日付読売新聞朝刊。
- 8) 2013年1月26日付読売新聞朝刊。
- 9) 2013年6月21日付読売新聞朝刊。
- 10) 前掲紙(注8)。
- 11) 2013年8月13日付読売新聞朝刊。
- 12) 同上紙(注9)。
- 13) 前掲紙(注7)。
- 14) 2013年9月11日付The Japan News。
- 15) 前掲紙(注9)。
- 16) 2013年6月22日付The Japan News。
- 17) 2013年6月20日付読売新聞朝刊。
- 18) 2013年6月21日付The Japan News。
- 19) 前掲紙(注7)。
- 20) 2013年9月11日付The Japan News。
- 21) 前掲紙(注17)。
- 22) 前掲紙(注18)。
- 23) Jackson, Alan, *Writing Plus! Practical English Writing Skills for University and College*, KINSEIDO, 2005.
- 24) *Ibid*, p. 62.